

山口県病院協会 会報

2026

7月号

No. 92

- 発行日 令和8年7月1日
- 発行所 一般社団法人 山口県病院協会 〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電 話 083-923-3682 ●FAX 083-923-3683
- 発行人 神徳 真也 ●メールアドレス info@yha.or.jp ●ホームページ <http://www.yha.or.jp>
- 印刷所 株式会社マルニ



医療法人聖比留会
セントヒル病院

住 所 : 〒755-0155 宇部市今村北三丁目7番18号
電 話 : 0836-51-5111 F A X : 0836-51-9999
U R L : <https://www.sthill-hp.or.jp/st>

CONTENTS (目次)

会員病院紹介	2 ページ
令和8年度定時総会	3 ページ
優良職員表彰受賞者一覧	4~5 ページ
協会役員コーナー	6 ページ
病院スタッフコーナー	7~8 ページ
研修会報告	8 ページ
諸会議報告	9 ページ
お知らせコーナー	9~10 ページ

会員病院紹介

病院長挨拶 ～医療法人聖比留会 セントヒル病院～



医療法人聖比留会
セントヒル病院
病院長

藤井 善蔵

当院は、昭和54年の開院以来、「地域住民に信頼される・安心できる・親しまれる病院を目指す」という理念のもと、地域の急性期医療の一翼を担ってまいりました。常に患者さんの視点に立ち、真摯に医療に向き合うことを基本姿勢としております。

当院は、急性期・回復期・慢性期の病床を有する184床のケアミックス病院です。当院の特徴として、100床規模のユニットを備えた人工透析を中心とする血液浄化療法の提供や、がん診断に特化したPET-CTやマンモPET、3テスラMRIといった最新機器の導入により、高度な専門診断機能の維持に努めております。また、本年2月にはAIを活用した電子カルテシステムを新たに導入したほか、山口大学との「高濃度水素水透析システム」の共同研究に参画するなど、常に質の高い医療を追求しております。

2025年が過ぎ2040年問題が差し迫る中、医師の高齢化や地域包括ケアシステムにおける地域連携の強化は、これまで以上に回避できない喫緊の課題です。さらに当院においては、建物の老朽化に伴う新病院の建築構想が、物価高騰や人材確保の難化により大幅に遅れるという厳しい現実にも直面しております。医療業界全体を取り巻く経営環境は極めて厳しい状況にありますが、地域の皆様に提供すべき医療の歩みを停滞させるわけにはいきません。

私たちはこの逆風の中、決して立ち止まることなく、最新技術の導入や研究、医療DXの推進による抜本的な業務効率化を通じて、一步ずつ着実に「前進」していく覚悟です。皆様に末永く親しまれ、心から信頼される病院であり続けるよう、職員一丸となって邁進してまいります。

病院の現状

1) 概要

名称 医療法人聖比留会 セントヒル病院
開設者 理事長 浜辺 崇衣
所在地 山口県宇部市今村北三丁目7番18号
TEL 0836-51-5111
FAX 0836-51-9999
E-mail nishikiwa@sthill-hp.or.jp
URL <https://www.sthill-hp.or.jp/st>
病院長 藤井 善蔵
病床数 184床（一般病床74床、地域包括ケア病床27床、療養病床83床）
診療科 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、人工透析内科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、放射線科、リハビリテーション科、麻酔科

2) 沿革

昭和54年3月 セントヒル病院開設（創設者 高木康光）
昭和54年9月 医療法人聖比留会 セントヒル病院に組織変更

平成18年11月 増築棟竣工
平成19年3月 PETセンター開設
平成20年3月 病院大規模改修工事竣工
平成26年3月 院内託児所「にこにこ園」開設
平成27年4月 当法人グループ内に介護サービスやサ高住等を開設
平成28年7月 一般病床87床、地域包括ケア病床14床、療養病床83床に変更
令和5年3月 病院施設内に「西岐波セントヒル訪問看護ステーション」開設
令和7年4月 一般病床74床、地域包括ケア病床27床、療養病床83床に変更

3) 特徴

当院は法人内に透析中心の医療機関が3施設と介護・訪問看護等の施設を有し、密接な連携で地域医療を支えています。PETによるがん検診の普及や渡航ワクチン外来の開設に加え、通院困難な地域へのオンライン診療や訪問診療も導入し、現在徐々に拡大しています。歴史ある透析医療を核に、最新設備とICTを駆使して地域の多様なニーズに応えます。

令和8年度 定時総会開催

日 時 令和8年6月4日（木）15：15～16：40
場 所 山口グランドホテル 鳳凰の間
（山口市小郡黄金町1－1）



総会風景

開 会

神徳会長の挨拶とともに開会した。

その後來賓の村岡 嗣政 山口県知事（代理 平屋 隆之 副知事）、柳居 俊学 山口県議会議長（代理 岡 生子 県議会環境福祉委員会委員長）、加藤 智栄 山口県医師会長（代理 中村 洋 副会長）より、それぞれ祝辞が述べられた。



平屋氏



岡氏



中村氏

次いで、病院優良職員の表彰状授与式が行われ、受賞者70名を代表して山口県立こころの医療センターの村田 由紀 氏に表彰状と記念品が授与された。



授与式写真

総会成立宣言

審議に先立ち、事務局より、会員総数124名に対して出席者107名（うち委任状59名）である旨の報告がなされ、神徳議長により総会が有効に成立する旨宣言がなされた。

議事録署名人選出

本日の議事録署名人として、片倉病院 高橋理事長及び阿知須同仁病院 西田理事長が選出された。

議案審議

○議案第1号

「令和7年度山口県病院協会 事業報告及び収支決算の承認について」

事務局より、令和7年度に実施した各種事業内容について説明と報告がなされた。さらに、令和7年度における当協会の収支決算状況について収支決算書に基づき説明と報告がなされた。

続いて中村監事より、令和7年度の事業並びに決算関係資料について瀬山監事とともに詳細に検討した結果、いずれも適正かつ適切に処理されている旨監査報告がなされ、審議の結果、原案どおり可決承認された。

報告事項

議案の審議終了後、事務局より令和8年度事業計画及び収支予算について詳細に説明が行われた。

閉 会

神徳議長より、本日の定時総会はすべて終了したことが告げられ、議事の進行への協力に対する感謝の意が述べられ閉会となった。

◎特別講演

定時総会閉会後、厚生労働省医政局の西嶋氏による特別講演が行われ、72名が聴講した。

演題：新たな地域医療構想を踏まえた今後の展望
講師：厚生労働省医政局

地域医療計画課長 西嶋 康浩 氏



特別講演風景



西嶋氏

受賞おめでとうございます

令和8年度 病院協会優良職員表彰 被表彰者名簿

病 院 名	役 職	姓 名
阿 知 須 共 立 病 院	総合サービス部長兼医事課長	窪 田 卓 然
〃	購買課事務職員	古 谷 恵 美
阿 知 須 同 仁 病 院	准 看 護 師	豊 島 小 雪
〃	介 護 福 祉 士	三 浦 朋 子
岩国市医療センター医師会病院	看 護 主 任	稲 垣 麻 衣 子
〃	看 護 師 長	室 谷 宣 志
宇 部 中 央 病 院	薬 剤 部 副 部 長	竹 尾 祥 子
〃	看護部副部長	福 場 由 美
宇 部 仁 心 会 病 院	臨床工学部主任	鈴 木 健 吾
宇部西リハビリテーション病院	介 護 職 員	桑 山 久 子
〃	臨床検査技師	小 田 朋 子
宇部リハビリテーション病院	看 護 師 長	藤 本 裕 美 子
〃	看護補助者チーフ	三 隅 俊 一
大 田 病 院	看 護 師	瀬 戸 加 代 子
〃	看護補助者	林 尚 子
小 郡 第 一 総 合 病 院	看 護 師	川 崎 純 子
〃	看 護 師	重 田 由 紀 子
小 郡 ま き は ら 病 院	訪問看護室主任	渡 辺 美 保 子
尾 中 病 院	看 護 師	岩 本 温 子
〃	看護助手	松 中 美 由 紀
片 倉 病 院	外 来 師 長	河 村 優 子
〃	看護師兼教育主任	倉 重 幸 代
光 風 園 病 院	准 看 護 師	沖 寿 江 子
〃	病 棟 科 長	川 野 亜 季 子
高 嶺 病 院	准 看 護 師	森 岡 綾 子
〃	精神保健福祉士	吉 田 妥 子
斎 木 病 院	営 繕 課 課 長	北 下 一 男
重 本 病 院	精神保健福祉主任	田 村 良 次
〃	病 棟 看 護 課 長	中 村 良 太 郎
柴 田 病 院	経営管理部相談役	片 柳 良 一
周 南 病 院	看 護 補 助 者	大 亀 実 加 紀
周 南 記 念 病 院	副 看 護 部 長	久 保 美 由 紀
〃	放射線科科長	福 田 浩 二
周南リハビリテーション病院	看 護 師 長	生 村 顕 愛 子
〃	介 護 福 祉 士	水 津 智 子
桑 陽 病 院	外 来 看 護 師 長	下 瀬 美 香

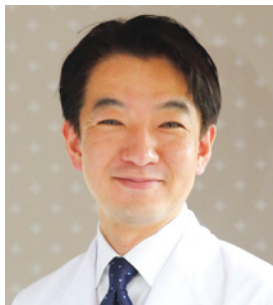
(病院名 50音順)

病 院 名	役 職	姓 名
田 代 台 病 院	准 看 護 師	合 田 美 保
玉 木 病 院	准 看 護 師	野 下 谷 ゆ か り
都 志 見 病 院	看 護 部 長	松 金 真 由 美 子
徳 山 医 師 会 病 院	看 護 係 長	三 浦 田 妙 子
徳 山 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 病 院	看 護 師	重 岡 田 広 佳 子
仁 保 病 院	事 務 職 員	福 久 田 前 広 静 香 子
福 永 病 院	看 護 師 長	坂 奥 田 行 和 裕 子
藤 政 病 院	薬 剤 部 長	兼 中 野 嶋 奈 緒 子
防 府 病 院	看 護 補 助 者	三 藤 山 浪 本 元 孝 子
防 府 保 養 院	看 護 師	山 林 根 節 清 平 子
まつもと整形救急外科病院	管 理 栄 養 士	山 森 田 究 江 子
三 田 尻 病 院	放 射 線 技 師	徳 地 谷 幸 千 代 子
み ど り 病 院	看 護 補 助 者	中 松 本 田 恵 秀 子
桃 崎 病 院	看 護 補 助 者	森 清 田 知 幸 子
山口県済生会下関総合病院	看 護 主 任	安 中 部 川 幸 千 枝
山口県立こころの医療センター	副 院 長	仲 田 文 男 紀 子
山口大学医学部附属病院	事 務 営 繕	村 田 由 美 和 子
山口リハビリテーション病院	診 療 部 長・医 師	高 砂 崎 伸 智 晃
山 口 労 災 病 院	副 薬 剤 部 長	上 野 石 野 洋 一 美 子
湯 野 温 泉 病 院	看 護 師 長	武 東 山 渡 山 本 豊 子
	リ ー ダ ー・介 護 福 祉 士	
	営 繕 主 任	
	血 液 内 科 部 長	
	准 看 護 師	
	看 護 師	

受賞者人数 41病院 70名

「協会役員コーナー」

「普通の病気」をきちんと治す「良い病院」



医療法人愛の会
光風園病院
病院長

木下 祐介

高度経済成長期を経て成熟期に入った我が国は、念願の「誰もが元気で長生きできる社会」を手に入れました。その副作用として、高齢者救急などの新たな課題が生じています。高齢者の救急搬送の多くを、誤嚥性肺炎、尿路感染症、心不全、脱水や、圧迫骨折などの比較的軽症の疾患が占めています。これを「救急を圧迫する厄介な課題」と捉えるのではなく、「高齢社会の当たり前の需要」として向き合うべきではないでしょうか。

若年層の単一疾患に対する医療と違い、高齢者医療には完璧なガイドラインが存在しません。マルチモビディティやフレイル、認知機能の低下といった医学的側面に加え、独居や老老介護といった社会的背景などの問題が複雑に絡み合い、一人一人の患者に合わせたオーダーメイド医療が必要とされるからです。

「難しい病気を治す」ことのできる「良い病院」の存在は重要ですが、「高齢者の普通の病気をきちんと治す」ことのできる「良い病院」が地域にたくさん存在することも大切です。手術や救命などの専門的な治療は高度急性期に集中させ、地域の医療機関は「高齢社会の当たり前の需要」に今まで以上に取り組むことも必要と考えます。私たちは、高齢者の

特性に対応するための知識や技術を更に磨き、治療環境を整えていく必要があります。複雑な病態を前に「高齢だから」と安易に限界を引かず、「看取り」という言葉の陰でまだ治せる可能性を見過ごしていないかと常に自らに問い続ける誠実さも必要です。目の前の患者に真摯に向き合い、地道に治し切って元の生活に戻っていただく。こうした当たり前の医療を全うすることこそが、地域医療に求められる真の専門性ではないでしょうか。

誰もがかかる「普通の病気」をきちんと治す「良い病院」を目指して歩み続けること。それが、地域を守る私たちの誇りであり、存在意義だと考えています。

周南記念病院の歩みと挑戦



社会医療法人同仁会
周南記念病院
病院長

橋谷田 博

社会医療法人同仁会 周南記念病院は、戦後間もない1951年の徳山記念病院開設から数え、本年で75年という節目を迎えました。1957年の法人承認、1987年の特定医療法人承認を経て、2000年には徳山記念病院と下松記念病院が合併・移転し、現在の「周南記念病院」が誕生いたしました。

2009年には社会医療法人としての承認を受け、現在はDPC病床150床、地域包括ケア病床50床、回復期リハビリテーション病床50床の計250床を擁し、多機能な役割を担う病院へと成長してまいりました。

現在、当院では年間約2,200台の救急車を受け入れておりますが、その大半は高齢者の患者様です。救急搬入からそのまま入院となるケースは5割近くに上ります。これは下松市・周南市・光市の周南医療圏に限った話ではなく、日本全体の救急医療が直面している「高齢者救急」の縮図と言えるでしょう。

高齢の患者様に対しては、入院直後から積極的なリハビリテーションを導入し、ADLの低下防止に努めております。しかし、急性期治療を終えてもなお、入院前と同等の生活

環境に戻ることが困難なケースは少なくありません。

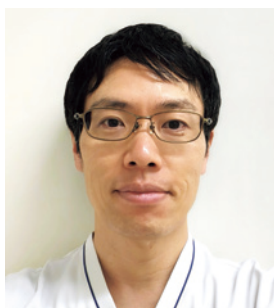
退院支援において現在大きな課題となっているのが、後方支援を担う療養病床や介護施設の待機問題です。受け入れ先の空きを待つ間、入院期間が長期化すれば、結果として新規の救急患者や予定手術患者の受け入れを制限せざるを得ないという、厳しい状況に追い込まれます。

この「病床の停滞」を解消し、地域医療の質を維持するためには、自院の努力だけでは限界があります。そのため当院では現在、後方受け入れ病院や介護施設との緊密なネットワーク作りに最優先で取り組んでおります。

医療提供体制が目まぐるしく変化する中で、私たちに求められているのは、一病院の完結型医療ではなく、地域全体で患者様を支える「循環型医療」の構築です。今後も周南記念病院は、地域の皆様の大変な命と暮らしを守るため、たゆまぬ努力を続けてまいります。

「病院スタッフコーナー」

患者様に寄り添った検査



周防大島町立東和病院
放射線科主任
診療放射線技師

渡邊 隆介

当院は周防大島町にある、2014年に改築した99床の病院です。現在使用している検査装置も同時期に導入されたものが多くを占めています。近年はAI技術など新しい技術の進歩が目覚ましく、医療の世界も大きく変化してきていると感じています。その一方で、物価高騰などの影響もあり、他の施設と同様に装置の更新が容易ではない状況です。特にMRI装置の場合、最新の装置と比べると撮像時間や画質の面で難しさを感じることもあります。

そのような中でも、できるだけ質の高い検査が行えるよう、日々の業務の中で工夫を重ねています。例えば、撮像条件や撮像順序の見直し、アーチファクトを減らすための丁寧なポジショニングなど、基本的なことではありますが重要な点を大切にしながら、スタッフ間で相談し取り組んでいます。また、検査前にできるだけ分かりやすく説明を行うことで、体動による再撮像を減らすよう努めています。検査を安心して受けていただけるような雰囲気づくりも大切にしています。

限られた環境の中でも、患者さんに安心して検査を受けていただけるよう努めることが地域医療を支える一助になると考えています。今後も新しい技術の動向にも目を向けながら、装置に頼るだけでなく、自分たちでできる工夫を大切に、より良い検査を行っていききたいと思います。

地域とともに歩むリハビリテーション医療



医療法人社団水生会 柴田病院
診療技術部部长
理学療法士

うえじょう
上條 寛司

昭和21年の創業以来、医療法人社団水生会 柴田病院は、地域に根ざした医療と介護を一体的に提供してきました。特にリハビリテーション分野では、昭和53年の病院開設時から理学療法科（現在の診療技術部リハビリテーション科）を設置し、早期から「生活を支える医療」を実践してきたことが大きな特徴です。

私が入職した平成26年当時、リハビリスタッフは3名体制でしたが、現在では15名を超える体制となり、外来・入院双方のリハビリテーションを支えています。

令和3年には全60床を地域包括ケア病棟へ転換し、「治す医療」だけでなく、「生活を取り戻す医療」を重視し、積極的に自宅訪問も行っています。また、百歳体操や介護予防出張講座、相談派遣事業など地域リハビリテーションにも積極的に取り組んでいます。

昨年は電子カルテ導入、病院機能評価の受審など、激動の1年でした。

私自身、理学療法士という仕事に大きなやりがいを感じ、日々の臨床を大切にしながら、少しでも患者様の笑顔につながるよう努めています。一方で、管理職としての立場から、他部署の職員との連携や関わりについても、日々試行錯誤を重ねながら取り組んでいるのが現状です。今後も医療・介護・在宅支援をつなぎ、「その人らしい生活の再建」を支える地域包括リハビリテーションの中核として、これからも地域に貢献していきます。

「病院スタッフコーナー」

「医療」と「福祉」の間にあるもの



医療法人扶老会
扶老会病院
事務長

佐伯 豪

私は2024年9月に扶老会病院の事務長職を拝命しました。それまで約25年間、同じ敷地内の社会福祉法人で障害福祉サービス事業所（旧精神障害者社会復帰施設）に勤務し、主に精神障害の方の支援を行ってきました。福祉の立場から、医療の立場へと転身を遂げたわけですが、四半世紀を通じて感じ続けていたのは、医療と福祉は似て非なるもの、両者の間には深い溝がある、ということでした。

医療と福祉は、精神障害を持つ人が地域で自分らしく暮らすための「両輪」です。近年、国は「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（にも包括）」の実現を目指し、両者の連携はますます重要になってきており、切れ目のない支援体制の構築が望まれています。では、両者の円滑な連携を阻む要因は何なのでしょう。

両者の専門性として、医療は「症状のコントロール（病理）」を重視し、福祉は「生活の質や本人の希望（QOL）」を重視します。この視点の違いが要因の一つではないかと考えます。また、両者の情報の共有不足（共有機会の欠如）も連携が停滞する要因になっているとも考えられます。

「にも包括」では、医療、福祉をはじめとした各関係機関が集まり、「顔の見える関係」を作りながら、協議する場を設けることになっています。「にも包括」の成否が、医療と福祉の壁解消の鍵を握っていると言っても過言ではないと思います。私も、両者での経験を活かし、地域支援体制構築の一助となれるよう精進して参ります。

研修会報告

令和8年度 病院初級職員研修会

令和8年6月17日（水）セントコア山口において、病院初級職員研修会が開催され、入職後概ね3年目までの職員55名が参加した。研修会の演題・講師は以下のとおり。

演 題 「医療接遇研修 ～基本編～」

講 師 株式会社 K・mind 代表 松永 佳世子 氏



松永 佳世子 氏



研修会風景

諸会議報告

令和8年度 第1回理事会

日 時 令和8年5月13日（水）15：30～17：00
開催場所 セントコア山口

【議 事】

1. 令和8年度定時総会提出議案について
 - ・令和7年度事業報告書及び収支決算書について

【承認事項】

1. 令和8年度病院優良職員表彰について
2. 令和8年度夏期医療経営講習会について
3. 令和8年度医療懇話会について

【協議事項】

1. 山口銀行との病院団体金融懇談会について

【報告事項】

1. 県行政委員等の推薦について
 - ・字部・小野田地域保健医療対策協議会委員
副会長 尾中 宇蘭（再任）
 - ・山口県高齢者保健福祉推進会議委員
常任理事 高橋 幹治（再任）

2. 県各種委員会等の経過報告について

尾中副会長

- ・令和7年度第2回山口県医療対策協議会専門
医制度部会 （3月23日）

郷良副会長

- ・令和8年度山口県献血推進協議会（5月7日）
玉木常任理事

- ・令和7年度山口県看護職員確保対策協議会
（3月16日）

- ・令和7年度第2回山口県在宅医療推進協議会
（3月18日）

【その他】

令和8年度 第1回情報管理委員会

日 時 令和8年6月11日（木）15：30～16：30
開催方法 Web会議（Zoom）

【協議事項】

1. 7月号の発行について
2. 10月号の発行準備について
3. その他

「お知らせコーナー」

山口県健康福祉功労者（優良看護職員）知事表彰

令和8年6月20日、山口県病院協会より推薦した6名の方が、多年にわたり看護業務に従事した功績により、山口県健康福祉功労者（優良看護職員）知事表彰を受賞されました。

おめでとうございます。



表彰式にて（左から石元氏、印藤氏、中谷氏、米村氏）

（氏名の50音順にて表記）

氏 名	病 院 名
石 元 由美子	山口リハビリテーション病院
印 藤 保 二	重本病院
金 子 栄	安岡病院
神 屋 美由紀	阿知須同仁病院
中 谷 優 子	山口大学医学部附属病院
米 村 礼 子	宇部リハビリテーション病院



金子氏



神屋氏

お知らせコーナー

● 会員の変更、異動など

【会員の変更】

	変更後		変更前	
・ 山口宇部医療センター	病院長	たなか 田中 伸幸	病院長	かみい 亀井 治人
・ 山口県立総合医療センター	病院長	すぎの 杉野 のりひろ	病院長	ふじ 武藤 正彦
・ 光総合病院	病院長	なかむら やすま 中村 安真	病院長	たけなか 竹中 智昭
・ 済生会豊浦病院	病院長	こまつ ひろたか 小松 宏卓	病院長	なかし 中司 謙二

【ほか異動など】

・ 光輝病院	病院長	ひさなが 久長 つねひろ	病院長	みやた 宮田伊知郎
・ 徳山病院	病院長	たかやま なりまさ 高山 成政	病院長	岡 芳彦

● 病院協会の主な行事予定

- 7月30日 夏期医療経営講習会 （会場：山口グランドホテル）
- 8月26日 山口県健康福祉部との医療懇話会 （会場：セントコア山口）
- 9月1日 山口銀行との金融懇談会 （会場：未定）



編集後記

◆日本の病院の7割以上が赤字経営に苦しむという、正に正念場の時代を迎えました。2014年に始動した地域医療構想は、節目とされた2025年度を終え、今まさにその成果と真価が問われています。その主眼は、限られた医療資源の有効活用を目指した「機能分化」にありました。高度急性期から慢性期まで四つの病床機能が定義されましたが、結果として急性期病床の絞り込みが一段と加速しています◆さらに、本年6月から施行された診療報酬改定では、急性期入院料の評価基準（いわゆるA基準・B基準）が再編・厳格化されました。これは、地域医療構想下で維持されてきた急性期機能が、さらなる選別の波にさらされたことを意味しています◆人口動態の激変に合わせ、医療の形もまた否応なしに変容を迫られています。各病院が生き残りをかけた戦略を練らねばならない「正解のない時代」において、本誌が荒波を進む皆様の「航海図」の一助となれば幸いです。（橋谷田 博）